

資料④ 「離れる若者、残る若者」

学びたいことが県外にあるから秋田を離れる人もいるという記載がありましたが、私も自分の学びたい学部が秋田県内の大学にはなかったため、秋田を離れるという選択をしました。福島から秋田に進学した方が話していたように、私も人の温かさは秋田が自信をもつべき強みだと考えます。その強みは秋田を離れてから、より強く感じるようになりました。どうしても秋田はニュースで人口減少や雪害、動物の被害などのマイナスな面にフォーカスされがちですが、もっと秋田の魅力に目を向けてほしいと思います。秋田を訪れたことがない人、秋田を訪れた経験はあっても県外で暮らしている人にもっと秋田を知ってもらうためにもPRは欠かせないと感じます。その人にとって、秋田で暮らすメリットが大きくなると、秋田県内への進学や移住にはつながらないと思うので、「秋田で働きたい」と思えるような職場環境が重要だと考えました。

この記事から、「秋田の若者が地元に残りたいのに残れない」という現実の厳しさを感じた。自然や食、人のあたたかさなど秋田の魅力は大きいですが、働く場が限定的であるため若年層の県外流出しているのも事実である。私自身も将来秋田で働きたいと考えているが、地元の友人の多くは県外に進学や就職をしてしまった。友人が「秋田は最高だけど夢を叶えるには県外に出るしかない」と語る姿に、職場の選択肢の少なさを痛感した。一方で、秋田の大学に通う県外出身の友人は、秋田に魅力を感じていた。そうした人々に秋田の魅力をさらに発信し、若者が活躍できる環境を整えることが必要だと考える。業種の幅が広がれば秋田を選ぶ人も増え、地域の活性化につながるのではないかと感じた。

業種の幅の少なさが若者の県外流出の一因となっている。特に美容系やブライダル、装飾関係などに興味を持つ同世代の女性は、県内に希望する職場が少なく、求人も限られているため、都市部での就職を選ぶ人が多い。人生設計や奨学金返済など現実的な課題を考えると、働ける場や選択肢が多い都市部での就職は、仕方のない選択だと思う。県外で専門的な資格を取得した友人の中には、その資格を活かせる職場や求人がなく、秋田に戻ることを諦める人もいる。秋田の自然豊かな環境や伝統的な祭りや文化の多さ、地域住民の温かさなど秋田の良さを理解している若者も多いが、安定した生活や人生設計のために県外へ移る選択を余儀なくされた人もいるかもしれない。だからこそ、秋田に残りたい・戻りたいと考える若者を後押しできるような工夫や政策が求められていると強く感じる。

私はこの記事を読んで、未来の秋田・世代のためにもっと働く環境や進学先の幅を増やしてほしいと切実に思った。私も当初、この記事に書かれている人たちのように地元での進学を考えていた。だが、自分が専攻したい分野を学べる大学が県内にはなかったため、やむを

得ず、県外の大学に進学した。そして、自分以外の多くの同級生も同じような感じだった。やはり、この記事のように仕方がなく県外に出るという人は珍しくないと思う。しかし、裏を返せば、若者が残りたいと思えるような環境を生み出せれば、若者の県外流出を防ぐことができる。少子化が加速する昨今、魅力あふれる秋田が衰退せず、むしろ活性化するように高齢者だけでなく若者向けの政策も、県全体で実施していただきたいと感じた。

秋田の若者たちが直面する現実と葛藤の大きさを実感した。地元で愛着を持ちながらも、賃金水準の低さや就職先の選択肢の少なさから県外へ進学・就職せざるを得ない状況は、人口減少が著しい地域特有の課題であると理解した。一方で、教育や医療といった地域に欠かせない分野で学び、将来的に秋田に残って貢献しようとする若者の姿には秋田の明るい未来を感じた。知事選の争点にも挙げられているように、若者が魅力を感じる雇用環境や、安心して生活できる基盤の整備は急務であり、記事からは、秋田の自然や人の温かさに惹かれる声も多く、その潜在的な魅力は大きいことが伝わってくる。行政が賃金や働き方の改善、職業情報の充実、さらには地域の魅力発信に力を注ぐことで、若者が将来を描ける地域へと成長していくことが期待されると考えた。

秋田県の若者が県外へ流出する現状についての記事を読み、改めて地方が抱える大きな課題を再認識しました。進学や就職のために地元を離れる人が多いのは、産業や職種の幅が限られていることが大きな要因であると感じます。やりたい仕事は県内で見つからなければ、夢を実現するために県外に出ざるを得ないです。一方で、秋田に残り夢の実現を目指す若者もいることも知りました。今の社会は、多様化が進み誰が何にでもなれる社会だと思います。しかし、生まれた場所によって、将来の選択肢が狭まってしまうことはあってはならないと考えます。秋田県で生まれた子供たちが安心して働けるように、地元の産業がもっと多様化していく必要があると思います。自治体や企業が連携し、新しい分野に挑戦したり、県外から人材や企業を呼び込んだりする取り組みを増やしていく必要があります。若者が「地元に残りたい」と思える環境を作ることが、地域の未来を支える鍵になると思いました。

この資料を読んで、就職について今一度考えた。地元就職で一番の課題となるのは自分が付きたい職業があるかどうかだと考えている。リモートワークが発展してきたことによりどこでも仕事を行える職業が増えてきたものの、その恩恵を受けられていないような職業もある。そのような職業を目指す場合は人口が減ってきている秋田にとって、とても大きな壁になってきているように感じた。また、横手市に限った話であると大学がないことも離れていく原因だと思った。青森では大学があることにより、県内就職を考えている人が多いという印象を受けていた。横手市では大学進学を目指そうとした場合必ず離れてしまうので賃金などの外的報酬よりも内的報酬を軸とした企業作りが大切なのではないかと考えた。

最後の段落を読んで僕は逆に残念と感じた。秋田県に対しての観光客が増えていくこと

はとても嬉しいことであるが、人口減少はそれでは解決していかないの、とても大変な立ち位置にあることを感じた。

私は将来東北の中から就職先を選択したいと考えているので、秋田で働く可能性も高いです。しかし私自身大学2年生になって就職についてうっすらと考え始めたところではありますが、実際に秋田で就職しようとしたときにそこまで多くの選択肢が思いつくわけはありません。たとえこの先秋田で働くことになっても周りに就職の選択肢が少ないことが原因となってどんどん衰退していく秋田の姿を見たくはありません。決して秋田の魅力がないわけではなく、ポテンシャルを生かせる部分は多いと思います。今ある秋田特有の職業をさらに大きくして、今ない秋田の魅力にかかわる職業は新たに作り、可能性を広げることで、独自色を強め、現状を打開してほしいと思いました。

この資料を読んでまず私が思ったことは秋田県の課題は賃金だと思いました。秋田県は全国で最低賃金が一番低い。そのため給与面で他県と比較すると低いため若者は県内で仕事を選びにくく県外へ流出してしまっているのが現状です。秋田には自然や文化などの魅力はたくさんありますが、暮らしていくと考えたときに一番大切になってくるのはお金だと私は考えている。同じ仕事でもらえるお金に違いがあるなら多くもらえるほうを選ぼうとするのは私も同じです。そこで私はもらえるお金は少なくとも使えるお金を増やしていけばこの課題は解決できると考えました。秋田県や会社が家賃補助や交通費などの福利厚生を充実させることで使えるお金を増やすことができます。そうすれば新たな経済的魅力が生まれ若者が残りたい、行きたいと思えるような秋田県にできると感じました。

この記事にあるように、秋田県の若者の流出現象は、とても深刻で改善が難しい問題だ。今までも様々な取り組みが行われてきているが、未だ改善には至っていない。たしかに秋田はとても住みやすく自然も豊かなので私にとって大好きな地元だ。しかし、実際には就職先の選択肢が限られていることや賃金水準の低さなどの理由から就職先として考えると不安になることが正直あると感じる。私の周りでも高校卒業後に県外へ進学したり就職したりする人が多い。地元が嫌いだから出ていくわけではなく、夢を実現するために県外に出ざるを得ないという人が多いことが現実である。一方で、記事にあったように秋田で夢を実現したいと思って地元に残る人の考えを読んで、工夫次第で自分のやりたいことを形にしていける可能性もあると思えた。秋田の若者の流出を防ぐためには、私たちが秋田でやりたいことができる方法がないかを考えることが大切である。この記事を読んで他人事のように単純に秋田にやりたいことができる環境がないからと県外に行くのではなく、秋田でも夢をかなえ、やりたいことができる環境をつくるにはどうしたらよいか考え続けていきたい。

「地元が嫌いなわけではない」。記事で紹介された、秋田を離れる方の言葉が胸に響きました。私自身も大学進学を機に秋田を離れた一人であり、その言葉は自分の気持ちを代弁しているようでした。より専門的な学びと就職先を求めた結果、県外に出るという選択は、私にとってごく自然な流れでした。しかし、それは決して故郷への否定的な感情からくるものではなく、自分の可能性を追求したいという前向きな思いがあったからこそでした。

来春から私は県外の農薬メーカーに就職しますが、研究を通じて日本の農業を支える私の仕事は、巡り巡って故郷の農業を支える力になると信じています。私の経験を故郷へ還元し、豊かな秋田に貢献したい。この記事を読み、その思いが一層強くなりました。

私は秋田が好きだ。しかし入社 1 年目から秋田で働くという選択肢はなかった。まずは東北の都・仙台でキャリアを積み、成長した上で秋田に貢献したいと考えているからだ。秋田には、空気の澄んだ環境や人の温かさなど、地元を離れて初めて気づいた魅力が多くある。一方で、就職活動を通して資料にもあったように、業種の少なさや新卒が幅広いキャリアを描きにくい現状を実感した。好きだからこそ働く場として選びにくい――それが若者の本音であり、私自身も同じだ。だからこそ、入社 1 年目から裁量を持ち多くの経験を積み、場所に縛られないフリーランスとして自由に働きながら秋田に住むという夢を抱いている。仙台市の UIJ ターン事業や採用広報、SNS マーケティングの長期インターンで培った知見を、将来は秋田のために活かしたい。若者が「秋田で働きたい」と心から思えるよう、生活水準の向上に加え、若手のキャリアアップ支援や就職支援の充実を期待する。